

片岡勸教授への献辞

総合管理学部長 中 宮 光 隆

片岡勸教授は、九州大学大学院法学研究科公法学専攻修士課程修了後、行政管理庁に入庁され、以後1994（平成6）年4月に本学総合管理学部に着任されるまで、国家公務員として高度な行政実務に携わってこられた。そのご経歴には燦然たるものがある。国家公務員上級職採用後早くも11年目に大蔵省理財局国有財産第二課総括課長補佐に就かれ、その後、国務大臣行政管理庁長官秘書、通商産業省貿易局短期輸出保険課長、臨時行政調査会事務局調査資料課長、農林水産省大臣官房参事官、総務庁行政監察局監察官、同庁行政管理局管理官、同局行政情報システム参事官（現官房審議官）、同庁近畿管区行政監察局長、同庁統計基準部長等を務められた。

本学では学部専門科目の「行政の基礎」、「パブリック・マネジメント」、「行政評価論」等の講義科目と演習を、また大学院の「行政評価論特殊講義」および「特別演習」をご担当いただいた。いずれも片岡教授の豊富なご経験とそれに裏打ちされた深いご造詣を12年間にわたって十二分に生かしていただいた。まさに片岡教授は、総合管理学部の教育・研究の発展に大きく貢献され、偉大な足跡を残されたわけであり、ここに深謝の意を表する次第である。

片岡教授のゼミを希望する学生も多かった。講義における丁寧な話し方とともに、片岡ゼミに所属する学生に対する親身の指導は学生諸君にも高く評価され、片岡教授を慕って学生が集まってくるのだと思われる。また多くの大学院学生をも育てていただいた。片岡教授から薫陶を受けた学生は、公務員試験に合格するものも多かったが、片岡教授は、公務員を希望する学生は企業経営も勉強すべきだし、企業に就職する学生は公共精神を身につける必要があるとつねに力説されていた。本学部の特色を生かした、まさに現代と近未来に必要な人材を片岡教授は本学部から送り出してくださったのである。

教育面だけでなく片岡教授は学外でもご活躍され、熊本県や地域の発展に多大の貢献をされた。熊本県本人確認情報保護審議会会長、熊本県個人情報制度審議会委員、熊本県総合計画推進委員会委員、同政策評価部会長、熊本県高度情報化推進懇話会座長、熊本市政治倫理審査会会長、本渡市情報公開審議会および個人情報審議会会長等の要職を歴任されてきた。

さらに、大学運営においても片岡教授は大いにご活躍いただいた。2002年から2004年までの2年間、大学評議員を務められた。この期間は私が1期目の学部長を務めた時期と重なるが、次々に生じる諸問題・諸課題の対応に際して、適切な判断とアドバイスをいただいた。つねに冷静沈着な片岡教授の姿勢から私は多くのものを学ばせていただいた。また片岡教授には、本学ご着任以来ほぼ一貫して本学部の就職対策委員として学生の就職のための指導、就職先の開拓、企業との情報交換等に積極的に取り組んでいただいた。片岡教授のような実務界で永年活躍された方々によるご指導は、学生の就職活動に対する動機付けに大きな刺激が与えられるし、また就職活動に関するさまざまな悩みや相談事に対して適切な助言や励ましをしてくださるので、学生には欠かせないものがある。この面でも片岡教授には他の教員とともに重要な役割を果たしていただいた。

もちろん研究面でも片岡教授は多くの業績をあげられている。片岡教授は、行政のマネジメントおよびコントロール論をご研究課題として設定され、論文にも政策評価や公共事業の改革等に関するものが多い。門外漢の私には片岡教授のご研究を正確に紹介する能力はないが、行政改革は、片岡教授が実務界（国家公務員）に在職しておられた時期から本学で教鞭を執られ研究を進められた今日にいたるまで、一貫して取り組まれた課題・テーマであった。その豊富な経験と識見がこれらのご研究の業績として結実したものであろうことは容易に想像できる。

ご活躍頂いた片岡教授に、定年とはいえ本学部から去られることは、誠に惜しい気持ちがするが、致し方ない。片岡教授には今後もお元気で充実した日々を送られることを切に念願するものである。これまでのご尽力に重ねて衷心よりお礼を申し上げたい。